

# PEACE QUEST 2010

Autumn - Winter



司会: 児玉絵美



挨拶: SPUTNIK International 内海理事長



挨拶: 在日スリランカ大使からのレター  
代読小谷理事



活動報告: 杉原悠太



活動報告: 杉原悠太



ライアー演奏: 三野友子



ライアー演奏: 三野友子



オークション



オークション



演奏: XQ's



演奏: XQ's



演奏: XQ's



演奏: XQ's + allstaff 「we are the world」



演奏: XQ's + allstaff 「we are the world」



演奏: XQ's + allstaff 「we are the world」



ハワイエ



ハワイエ



ハワイエ



ハワイエ (パークカウンター)



お土産

# Peace Quest 2010 Autumn-Winter ~Dialogue!~

## 実施報告書

Jan.2011

一般社団法人SPUTNIK INTERNATIONAL

### ◆はじめに

平素は当団体に絶大なるご支援を賜り、心より感謝を込めて御礼申し上げます。

さて、今回も皆様の多大なるご協力の下、「PEACE QUEST 2010 Autumn-Winter」を大成功裏に終えることができました。

本当にありがとうございました。ここに概要を記し、報告とさせていただきます。

まだまだ至らぬ点多々ございますが、今後ともご指導、お力添えのほど、よろしくお願いいたします。

### ◆イベント概要

今年のテーマは、『Dialogue』(対話)でした。

「異文化を体験し、お互いの文化・価値観・宗教・習慣などを学び理解し尊重することで、誤解からおこる無用な争いを防ぎ、活動の延長線に誰もが安心して住める平和な世界を目指す。」・・・このテーマは我々にとって重要であり、これからも推進していく所存ですが、その過程で大切になるのが「対話」つまり「Dialogue」であると考えています。

今回のPeace Questにお越しいただいたお客様、ご協力いただいた皆様の中に、多くの人との会話や、新しい発見へのきっかけ作りが生まれたのであれば、とても嬉しく思います。

イベントでは、2010年のスリランカでの活動報告を、今年3ヶ月間スリランカでボランティア活動を体験してきた杉原悠太氏に担当してもらいました。彼が撮影してきたスリランカのSPUTNIK Girls Home(孤児院)の映像などを通し、スリランカをよりよく知るきっかけが提供できたと思います。また、コンサートでは三野友子様に、ライアーという古代ギリシャから伝わる楽器で、やすらぎと癒しの音空間を提供していただきましたと共に、すっかり御馴染みとなった社会貢献バンド、「XQ's」の皆さんにも、年末にふさわしい素晴らしい演奏をしていただきました。ご協賛いただきました皆様、ご来場いただいたお客様、イベントに携わった多くのボランティアスタッフの皆様の力があってこそその大成功であったと自負しております。

今回得られた収益は・・・

- ・ SPUTNIK International SriLanka国際教育文化交流会館維持
- ・ 2011年度の常駐日本語教師支援
- ・ SPUTNIK Girls Homeの孤児達の支援
- ・ NPO法人グリーンバード協同プロジェクトであるゴミ拾い支援
- ・ スリランカ、クルネガラにある高校に通う生活困難家庭の優秀な生徒への奨学金(20名)
- ・ (財)エイエフエス日本協会様と共同で行っているスリランカ高校生の『日本への1年間留学』支援
- ・ その他、スリランカでの活動で必要と思われる事案

に対し使われます。

SPUTNIK International, Sri-Lanka, Ghana. 我々の地道な活動は必ず世界平和への道であると信じております。

### ◆実施概要

主催:一般社団法人SPUTNIK International 及びSPUTNIK International SriLanka

後援:スリランカ大使館/日本青年会議所/(財)AFS日本協会/人間力開発協会/(社)リベラルアーツ推進協会/スリランカ航空[順不同]

特別協力:原宿クエストホール

協賛:ユーエムイー / コールドウェルバンカー青山店(ATOMIC投資委託) / 医療法人社団シーズ・メディカル / ドクター・シーラボ / 生活の木 / BEAMS / 三番町トラスト / ミキジ / 内海勝統 / グランドデザイン&カンパニー / 英治出版 / クー・インターナショナル /

エムイージー / ナレッジパーク / 麻布サイコ&カウンセリングクリニック / オフィス男気大陸【順不同】

協力: CTW表参道アカデミー / 西日本陶器 / エコファームカフェ632 / ミチコーポレーション / 横浜ベイスターズ【順不同】

日時: 2010年12月26日(日) 開場13:30 開演14:00

会場: 原宿クエストホール[東京都渋谷区神宮前1-13-14]

会費: 一般2,500(前売2,000)円、在日外国人及び学生1,500(前売1,000)円

入場者数: 約250名

#### 内容:

- ・プレゼンテーション: 2010年のSPUTNIKスリランカでの活動報告
- ・チャリティーオークション
- ・チャリティーコンサート: 出演: 三野友子、社会貢献バンドXQ's
- ・スリランカグッズ・スリランカスナックの販売

#### プログラム:

司会進行 児玉絵美(日本人学生ボランティアスタッフ)

14:00~14:10 開会挨拶スリランカ大使 Letter 紹介

14:10~14:30 活動報告(杉原悠太 SPUTNIK ボランティアスタッフ)

14:35~14:50 コンサート: 三野友子

14:50~15:05 休憩

15:05~15:30 オークション

15:30~16:20 コンサート: XQ's

## ◆出演者プロフィール

### XQ's

2007年春結成の社会貢献バンド。XQ'sの名前の由来は、英語の excuse、つまり「言い訳」である。メンバーの年齢のせいもあって、とにかく言い訳が多い。(だが皆、社業はexcuse なしてしっかり頑張っているの、その辺はちょっと大目に見てあげてください。)

メンバーは皆、高校や大学の文化祭でしか人前で演奏したことがないものが大半であった(笑)が、かつてプロミュージシャンであったバンマスのTAKUの指導の下、演奏技術は飛躍的に向上している(はずである)。XQ'sのテーマソングは、Eric Clapton のChange the Worldである。これは、XQ'sの各メンバーが、本業を通じて、あるいは音楽を通じて、世の中をもっとよく変えたい、社会貢献したいと心から願っているからである。音楽に対する情熱と、300人を前にステージを踏む「快感」はもはや捨て去ることはできない。おそらく、いつの日かメンバーやファンが爺さん婆さんになってもXQ'sはステージに立ち続けるであろう。

老眼や白髪になっても、シワシワになっても、人は人をROCKする(揺さぶる)ことができることは、ほかならぬClaptonやSir Michael Phillip Jaggerが証明している。2011年、XQ'sはクエストホール以外の場所にも多数出没を計画している。詳細はホームページで順次お伝えします。(文責・XQ's SETH)

### 三野友子

福岡県出身。8年半にわたるドイツ滞在中に、

長男の通っていた現地のシュタイナー幼稚園でライアーに出会い、その奏法を学ぶ。

クラシックからケルト音楽、中世の祈りの音楽、オリジナル曲まで幅広いレパートリーを持つ。

各種イベント、パーティ、サロンコンサート、病院、老人ホーム、幼稚園などでの演奏、

語り・朗読やパフォーマンスとのコラボレーションなど、

さまざまな場所でやすらぎと癒しの音空間を提供する演奏活動をおこなう。

CD「ライアーのこもりうた」ほか3枚制作。

HP <http://www14.ocn.ne.jp/~leier/>



## ◆収支報告

### ●収入の部

協賛金		¥1020,000
チケット		¥271,000
オークション		¥109,800
売上	ぞうさんペーパー・紅茶他	¥79,429
寄付		¥98,091
合計		¥1,578,320

### ●支出の部

音響・照明	会場使用費含む	¥231,000
仕入れ	物販(紅茶・ハーブティー+スリランカフード)	¥32,390
運営・制作費・謝礼	運営及びチラシ・パンフレット他	¥170,000
雑費		¥37,570
合計		¥470,960

総合計

収入 1,578,320 - 支出 470,960 = 1,107,360

※上記は概算です。

今回のコンサートの収益金( ¥1,107,360 ) は全てが上記、目的資金用途に使わせていただきます。  
本当に皆様ありがとうございました。

今後とも、目に見える支援をモットーに、私達にできることを無理せず、笑顔で、前向きに進めていきたいと考えています。今後とも、一般社団法人 SPUTNIK International への応援、宜しくお願いいたします。  
また、進捗などにつきましてはホームページに随時あげてまいりますので、時々ご覧いただければ幸いです。  
今後とも宜しくお願い致します。

一般社団法人 SPUTNIK International 一同